

クラシック音楽の作曲家といえば、最初に名前が挙がるモーツァルト。貴族から市民までモーツァルトの書いた旋律をヨーロッパ中の人々が口ずさんだ。流れるような旋律、大胆で効果的なハーモニー、色彩感のあるオーケストレーション、絶妙のバランスに整えられた形式、躍動感と<sup>ほとぼし</sup> 迸る情熱、笑いと涙、人間を見つめる温かいまなざし。<sup>せきりょう</sup> 寂寥。そして計り知れない愛。幼少から作曲を始めたモーツァルトの音楽にはどの作品にも生きた人間の姿が映し出されている。モーツァルトはクラシック音楽を貴族の宮廷から解放した。君主のためではなく、万人が共感できる芸術へと変容させたのだ。オペラ「フィガロの結婚」では平民である従者が君主である横暴な伯爵を<sup>や</sup>遣り込める。それはナポレオン以前に行われた音楽劇の中での革命であった。

## 革命児モーツァルト

モーツァルトの生きた時代は啓蒙<sup>もう</sup>思想の時代であった。知識人たちが知性・博愛・平等を掲げ、迷信を信じ盲目に生きている世の人々を、科学という光によって新しい知性の支配する世界へと導こうとしたのであった。モーツァルト自身も啓蒙思想の結社であるフリーメイソンの会員であったことは有名である。だが、実際の啓蒙主義は、貴族と平民を身分として平等と考えてはいなかったし、また女性には男性のような知性が存在しないとして、入会すら許されていなかった。オペラ「魔笛」ではフリーメイソンの世界が描かれている啓蒙君主であるザラストロの城で主人公である王子タミーノは王女パミーナと結ばれるための試練を受ける。最後の試練である火と水の試練。命をも脅かす試練に向かうのはタミーノ一人ではない。パミーナも同行することを許される。「私が先に行って案内します。魔法の笛を吹いてください。笛が私たちを守ってくれますわ。」— この歌詞が歌われた瞬間、オペラの主人公は愛しあい協力し合う一組の男女となった。女性の力なくしては新しい世界は来ない。そして彼らを助ける笛とはすなわち音楽をはじめとする芸術を意味する。20世紀半ばまでとりとめもないお伽オペラと思われていた「魔笛」の中にモーツァルトが託したメッセージである。